

(2) 地域と専門職との連携の有無と有益性の関係

地域と「専門職との連携の有無と有益性」に関する項目に欠損のない11,551名を解析対象とした。

「北海道」に所属している保健師群と「信越・北陸」「近畿」「中国」群において有意な差が観察された。以上のことから、「北海道」群は、「信越・北陸」「近畿」「中国」群より、機関との連携の規模が小さく、有用性の認知得点が低いことが示唆された。

「東北」群と、「信越・北陸」「近畿」「中国」群間での負の有意な差が、「四国」群間で有意な差が観察された。以上のことから、「東北」群は、「信越・北陸」「近畿」「中国」群より、機関との連携の規模が小さく、有用性の認知得点が低いことが示唆されたと同時に、「四国」群よりは、機関との連携の規模が大きく、有用性の認知得点が高いことが示唆された。

「関東」群と、「信越・北陸」「近畿」「中国」群間で有意な差が観察された。以上のことから、「関東」群は、「信越・北陸」「近畿」「中国」群より、機関との連携の規模が小さく、有用性の認知得点が低いことが示唆された。

「信越・北陸」群と、「北海道」「東北」「関東」「東海」「四国」「九州・沖縄」群間で有意な差が観察された。以上のことから、「信越・北陸」群は、「北海道」「東北」「関東」「東海」「四国」「九州・沖縄」群よりも、機関との連携の規模が大きく、有用性の認知得点が高いことが示唆された。

「東海」群と、「信越・北陸」「近畿」「中国」群間で有意な差が観察された。以上のことから、「東海」群は、「信越・北陸」「近畿」「中国」群よりも、機関との連携の規模が小さく、有用性の認知得点が低いことが示唆された。

「近畿」群と、「北海道」「東北」「関東」「東海」「四国」「九州・沖縄」群間で有意な差が観察された。以上のことから、「近畿」群は、「北海道」「東北」「関東」「東海」「四国」「九州・沖縄」群よりも機関との連携の規模が大きく、有用性の認知得点が高いことが示唆された。

「中国」群と、「北海道」「東北」「関東」「東海」「四国」「九州・沖縄」群間で有意な差が観察された。以上のことから、「中国」群は、「北海道」「関東」「東海」「四国」「九州・沖縄」群よりも、機関との連携の規模が大きく、有用性の認知得点が高いことが示唆された。

「四国」群と、「東北」「信越・北陸」「近畿」「中国」「九州・沖縄」群間で有意な差が観察された。以上のことから、「四国」群は、「東北」「信越・北陸」「近畿」「中国」「九州・沖縄」群よりも、機関との連携の規模が小さく、有用性の認知得点が低いことが示唆された。

「九州・沖縄」群と、「信越・北陸」「近畿」「中国」群間で有意な差が観察され、「四国」群間でも有意な差が観察された。以上のことから、「九州・沖縄」群は、「信越・北陸」「近畿」「中国」群よりも、機関との連携の規模が小さく、有用性の認知得点が低いことが示唆されたと同時に、「四国」群よりも機関との連携の規模が大きく、有用性の認知得点が高いことが示唆された。

表 22 地域と専門職との連携の有無の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差	範囲
北海道	743	37.0	11.4	6-68点
東北	1314	37.4	12.1	2-68点
関東	2865	36.1	13.3	0-68点
信越・北陸	1039	40.3	12.9	0-68点
東海	1217	36.0	12.8	0-68点
近畿	1792	39.1	13.4	0-68点
中国	809	39.5	12.6	0-68点
四国	498	35.0	11.6	5-67点
九州・沖縄	1274	37.3	12.9	0-68点
合計	11551	37.5	12.9	0-68点

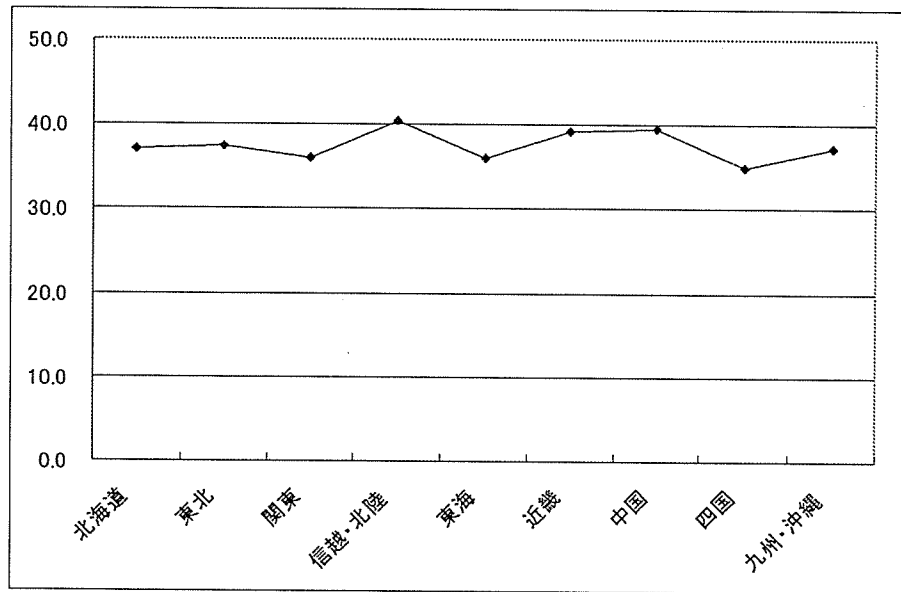


図 40 地域と専門職との連携度数の平均値

		平均値の差	有意確率(P)
北海道	東北	-0.386	1.00
	関東	0.918	1.00
	信越・北陸	-3.256	0.00 **
	東海	1.020	1.00
	近畿	-2.066	0.01 *
	中国	-2.519	0.00 **
	四国	2.049	0.21
	九州・沖縄	-0.334	1.00
東北	北海道	0.386	1.00
	関東	1.304	0.08
	信越・北陸	0.084	0.00 **
	東海	1.406	0.22
	近畿	-1.680	0.01 *
	中国	-2.133	0.01 *
	四国	2.435	0.01 *
	九州・沖縄	error	1.00
関東	北海道	-0.918	1.00
	東北	-1.304	0.08
	信越・北陸	0.084	0.00 **
	東海	0.102	1.00
	近畿	-2.985	0.00 **
	中国	-3.437	0.00 **
	四国	1.130	1.00
	九州・沖縄	-1.253	0.14
信越・北陸	北海道	3.256	0.00 **
	東北	2.870	0.00 **
	関東	4.175	0.00 **
	東海	4.277	0.00 **
	近畿	1.189	0.64
	中国	0.737	1.00
	四国	5.305	0.00 **
	九州・沖縄	2.921	0.00 **
東海	北海道	-1.020	1.00
	東北	-1.406	0.22 **
	関東	-0.102	1.00
	信越・北陸	-4.277	0.00 **
	近畿	-3.087	0.00 **
	中国	-3.539	0.00 **
	四国	1.028	1.00
	九州・沖縄	-1.355	0.31
近畿	北海道	2.066	0.01 *
	東北	1.680	0.01 *
	関東	2.985	0.00 **
	信越・北陸	-1.189	0.64
	東海	3.087	0.00 **
	中国	-0.452	1.00
	四国	4.116	0.00 **
	九州・沖縄	1.732	0.01 *
中国	北海道	2.519	0.00 **
	東北	2.133	0.01 *
	関東	3.347	0.00 **
	信越・北陸	-0.737	1.00
	東海	3.539	0.00 **
	近畿	0.452	1.00
	四国	4.568	0.00 **
	九州・沖縄	2.184	0.01 *
四国	北海道	-2.049	0.21
	東北	-2.435	0.01 *
	関東	-1.130	1.00
	信越・北陸	-5.305	0.00 **
	東海	-1.028	1.00
	近畿	-4.116	0.00 **
	中国	-4.568	0.00 **
	九州・沖縄	-2.384	0.02 *
九州・沖縄	北海道	0.334	1.00
	東北	error	1.00
	関東	1.253	0.14
	信越・北陸	-2.921	0.00 **
	東海	1.355	0.31
	近畿	-1.732	0.01 *
	中国	-2.184	0.01 **
	四国	2.384	0.02 *

表 23 地域と専門職との連携の有無の多重比較

従属変数：「専門職との連携の有無と有益性」尺度合計得点

*：平均の差は 0.05 以下で有意 **：平均の差は 0.01 以下で有意

(3) 地域と連携活動評価尺度の関係

地域と連携活動評価尺度に関する項目に欠損のない11,924名を解析対象とした。

「北海道」に所属している保健師群と「関東」「東海」群間において有意な差が観察された。以上のことから、「北海道」群は、「関東」「東海」群より、連携活動評価尺度得点が高いことが示唆された。

「東北」群と、「関東」「東海」群間で有意な差が観察された。以上のことから、「東北」群は、「関東」「東海」群より、連携活動評価尺度得点が高いことが示唆された。

「関東」群と、「北海道」「東北」「信越・北陸」「近畿」「中国」「九州・沖縄」群間で有意な差が観察された。以上のことから、「関東」群は、「北海道」「東北」「信越・北陸」「近畿」「中国」「九州・沖縄」群より、連携活動評価尺度得点が低いことが示唆された。

「信越・北陸」群と、「北海道」「東北」「関東」「東海」「四国」「九州・沖縄」群間で有意な差が観察された。以上のことから、「信越・北陸」群は、「北海道」「東北」「関東」「東海」「四国」「九州・沖縄」群よりも、機関との連携の規模が大きく、有用性の認知得点が高いことが示唆された。

「東海」群と、「関東」「東海」「四国」群間で有意な差が観察された。以上のことから、「東海」群は、「関東」「東海」「四国」群よりも、連携活動評価尺度得点が低いことが示唆された。

「近畿」群と、「関東」「東海」群間で有意な差が観察された。以上のことから、「近畿」群は、「関東」「東海」群よりも連携活動評価尺度得点が高いことが示唆された。

「中国」群と、「関東」「東海」群間で、有意な差が観察された。以上のことから、「中国」群は、「関東」「東海」群よりも連携活動評価尺度得点が高いことが示唆された。

「四国」群と、「信越・北陸」「九州・沖縄」群間で、有意な差が観察された。以上のことから、「四国」群は、「信越・北陸」「九州・沖縄」群よりも、連携活動評価尺度得点が低いことが示唆された。

「九州・沖縄」群と、「関東」「東海」「四国」群間で有意な差が観察された。以上のことから、「九州・沖縄」群は、「関東」「東海」「四国」群よりも、連携活動評価尺度得点が高いことが示唆された。

表 24 地域と連携活動評価尺度の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差	範囲
北海道	777	22.8	4.9	2-36点
東北	1381	22.6	5.1	5-42点
関東	2949	21.8	5.1	0-38点
信越・北陸	1071	23.2	4.9	0-39点
東海	1237	21.4	5.1	4-37点
近畿	1833	22.9	4.9	0-39点
中国	851	22.9	4.9	0-39点
四国	503	22.1	5.1	3-36点
九州・沖縄	1322	23.2	4.9	3-39点
合計	11924	22.5	5.1	0-42点

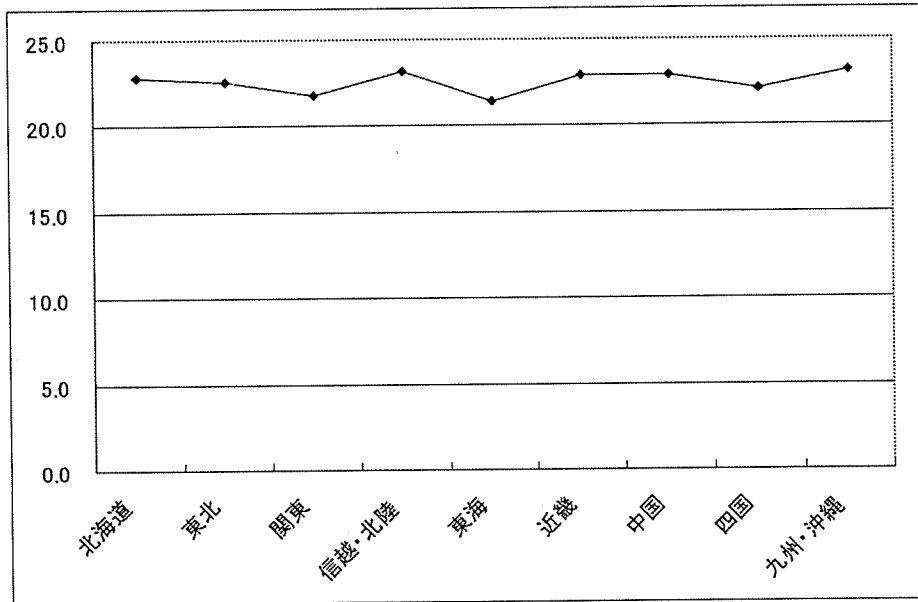


図 41 地域と連携活動評価尺度の平均値

		平均値の差	有意確率(P)	
北海道	東北	0.224	1.00	
	関東	1.053	0.00	**
	信越・北陸	-0.374	1.00	
	東海	1.472	0.00	**
	近畿	error	1.00	
	中国	error	1.00	
	四国	0.726	0.44	
	九州・沖縄	-0.332	1.00	
東北	北海道	-0.224	1.00	
	関東	0.829	0.00	**
	信越・北陸	-0.598	0.13	
	東海	1.247	0.00	**
	近畿	-0.305	1.00	
	中国	-0.289	1.00	
	四国	-0.501	1.00	
	九州・沖縄	-0.557	0.15	
関東	北海道	-1.053	0.00	**
	東北	-0.829	0.00	**
	信越・北陸	-1.427	0.00	**
	東海	0.418	0.05	
	近畿	-1.134	0.00	**
	中国	-1.119	0.00	**
	四国	-0.327	1.00	
	九州・沖縄	-1.386	0.00	**
信越・北陸	北海道	0.374	1.00	
	東北	0.598	0.13	
	関東	1.427	0.00	**
	東海	1.845	0.00	**
	近畿	0.293	1.00	
	中国	0.308	1.00	
	四国	1.100	0.00	**
	九州・沖縄	error	1.00	
東海	北海道	-1.472	0.00	**
	東北	-1.247	0.00	**
	関東	-0.418	0.54	
	信越・北陸	-1.845	0.00	**
	近畿	-1.552	0.00	**
	中国	-1.537	0.00	**
	四国	-0.745	0.20	
	九州・沖縄	-1.804	0.00	**
近畿	北海道	error	1.00	
	東北	0.305	1.00	
	関東	1.134	0.00	**
	信越・北陸	-0.293	1.00	
	東海	1.552	0.00	**
	中国	error	1.00	
	四国	0.807	0.06	
	九州・沖縄	0.251	1.00	
中国	北海道	error	1.00	
	東北	0.289	1.00	
	関東	1.119	0.00	**
	信越・北陸	-0.308	1.00	
	東海	1.537	0.00	**
	近畿	error	1.00	
	四国	0.791	0.20	
	九州・沖縄	-0.267	1.00	
四国	北海道	-0.726	0.44	
	東北	-0.501	1.00	
	関東	-0.327	1.00	
	信越・北陸	-1.100	0.00	**
	東海	0.745	0.20	
	近畿	-0.807	0.06	
	中国	-0.791	0.20	
	九州・沖縄	-1.059	0.00	*
九州・沖縄	北海道	0.332	1.00	
	東北	0.557	0.15	
	関東	1.386	0.00	**
	信越・北陸	error	1.00	
	東海	1.804	0.00	**
	近畿	0.251	1.00	
	中国	0.267	1.00	
	四国	1.059	0.00	**

表 25 地域と連携活動評価尺度の多重比較

従属変数：「専門職との連携の有無と有益性」尺度合計得点

*：平均の差は 0.05 以下で有意 **：平均の差は 0.01 以下で有意

第4節 年齢階層別の分析結果

年齢階層を独立変数、「機関との連携の有無と有益性」尺度、「専門職との連携の有無と有益性」尺度、「連携活動評価尺度」の合計得点を従属変数として一元配置分散分析をおこなった。

(1) 年齢階層と機関との連携の有無と有益性の関係

年齢階層と「機関との連携の有無と有益性」に関する項目に欠損のない9,719名を解析対象とした。

一元配置分散分析をおこなった結果、「40歳代」の群は「20歳代」の群、「30歳代」の群間において有意な差が観察された。また、「40歳代」の群は、「50歳代」の群、「60歳代」の群間で有意な差が観察された。これらのことから、「50歳代」の群、「60歳代」の群は、「40歳代」の群より機関との連携の規模が大きく、有益性の認知得点も高い傾向にあることが示唆された。

表 26 年齢階層と機関との連携の有無の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差	範囲
20歳代	2674	34.4	13.9	0-88点
30歳代	3411	34.8	13.5	0-92点
40歳代	2458	37.4	13.2	0-92点
50歳代	1140	40.0	14.6	0-92点
60歳代	36	45.2	16.2	14-81点
合計	9719	36.0	13.8	0-92点

		平均値の差	有意確率(P)
20歳代	30歳代	-0.49	1.00
	40歳代	-3.05	0.00 **
	50歳代	-5.61	0.00 **
	60歳代	-10.80	0.00 **
30歳代	20歳代	0.49	1.00
	40歳代	-2.57	0.00 **
	50歳代	-5.14	0.00 **
	60歳代	-10.32	0.00 **
40歳代	20歳代	3.05	0.00 **
	30歳代	2.57	0.00 **
	50歳代	-2.56	0.00 **
	60歳代	-7.75	0.01 *
50歳代	20歳代	5.61	0.00 **
	30歳代	5.13	0.00 **
	40歳代	2.56	0.00 **
	60歳代	-5.18	0.25
60歳代	20歳代	10.80	0.00 **
	30歳代	10.32	0.00 **
	40歳代	7.75	0.01 *
	50歳代	5.18	0.25

従属変数：「機関との連携の有無と有益性」尺度合計得点

*：平均の差は0.05以下で有意 **：平均の差は0.01以下で有意

表 27 年齢階層と機関との連携の有無の多重比較

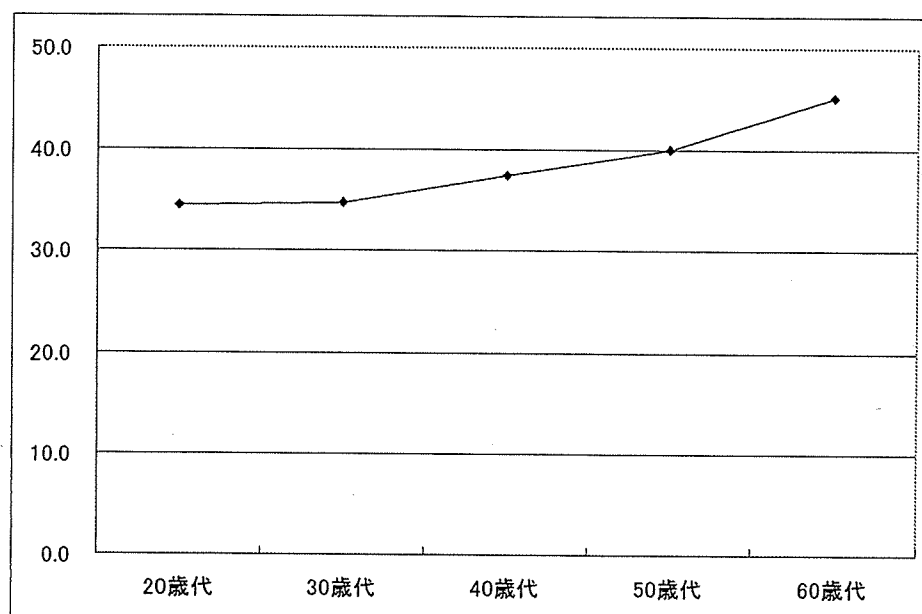


図 42 年齢階層と機関との連携度数の平均値

(2) 年齢階層と専門職との連携の有無と有益性の関係

年齢階層と専門職との連携の有無と有益性に欠損のない11,753名を解析対象とした。一元配置分散分析をおこなった結果、「20歳代」の群と「30歳代」の群との間に正の有意な差が観察された。このことから、「20歳代」の群は、「30歳代」の群より、専門職との連携の規模が大きく、有益性の認知得点が高いことが示唆された。また、「50歳代」の群と、「30歳代」「40歳代」の群間で有意な差が観察された。以上のことから、「50歳代」の群は、「30歳代」「40歳代」の群より、専門職との連携の規模が大きく、有益性の認知得点が高いことが示唆された。

表 28 年齢階層と専門職との連携の有無の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差	範囲
20歳代	3154	37.8	12.6	0-68点
30歳代	4052	36.8	13.0	0-68点
40歳代	3017	37.4	12.8	0-68点
50歳代	1485	38.8	13.2	0-68点
60歳代	45	36.8	14.9	4-65点
合計	11753	37.5	12.9	0-68点

		平均値の差	有意確率(P)
20歳代	30歳代	0.99	0.01 *
	40歳代	0.34	1.00
	50歳代	-1.07	0.09
	60歳代	0.94	1.00
30歳代	20歳代	-0.99	0.01 *
	40歳代	-0.65	0.36
	50歳代	-2.07	0.00 **
	60歳代	error	1.00
40歳代	20歳代	-0.34	1.00
	30歳代	0.65	0.36
	50歳代	-1.41	0.01 *
	60歳代	0.60	1.00
50歳代	20歳代	1.07	0.09
	30歳代	2.06	0.00 **
	40歳代	1.41	0.01 *
	60歳代	2.01	1.00
60歳代	20歳代	-0.94	1.00
	30歳代	error	1.00
	40歳代	-0.60	1.00
	50歳代	-2.01	1.00

従属変数：「機関との連携の有無と有益性」尺度合計得点

*：平均の差は0.05以下で有意 **：平均の差は0.01以下で有意

表 29 年齢階層と専門職との連携の有無の多重比較

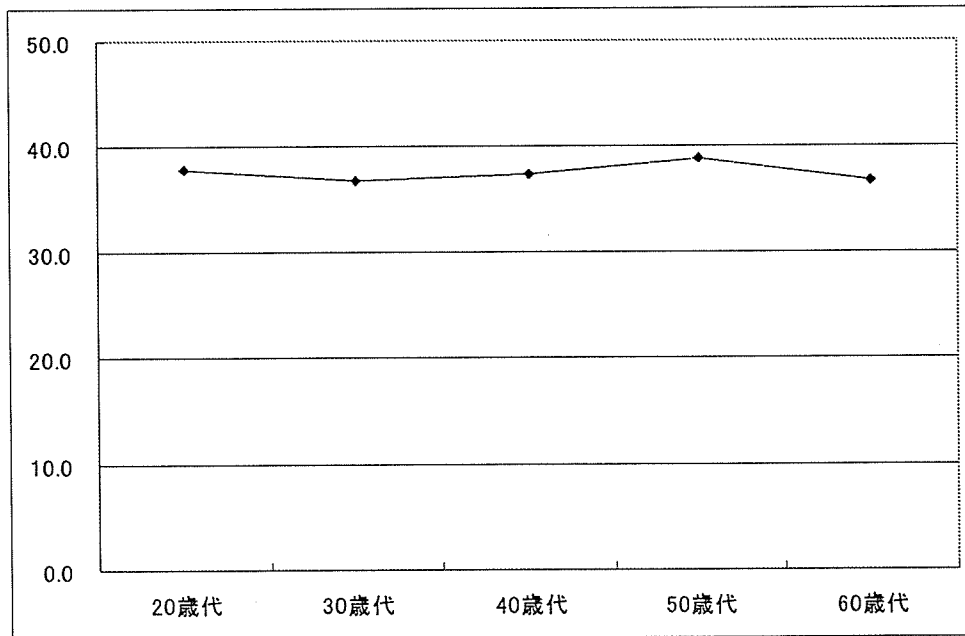


図 43 年齢階層と専門職との連携度数の平均値

(3) 年齢階層と連携活動評価尺度との関係

年齢階層と連携活動評価尺度に関する項目に欠損のない12,120名を解析対象とした。

一元配置分散分析をおこなった結果、「50歳代」の群と、「20歳代」「30歳代」「40歳代」の群間において有意な差が観察された。「60歳代」と「40歳代」「50歳代」の群間では有意な差が観察されなかった。以上のことから、「50歳代」の群は、「20歳代」「30歳代」「40歳代」の群よりも、連携活動評価尺度の得点が高いことが示唆された。

表 30 年齢階層と連携活動評価尺度の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差	範囲
20歳代	3211	21.0	4.8	1-37点
30歳代	4154	21.9	4.8	0-38点
40歳代	3161	23.4	4.9	0-39点
50歳代	1551	25.2	5.1	0-42点
60歳代	43	24.6	4.6	16-34点
合計	12120	22.5	5.1	0-42点

表 31 年齢階層と連携活動評価尺度の多重比較

		平均値の差	有意確率(P)
20歳代	30歳代	-0.93	0.00 **
	40歳代	-2.44	0.00 **
	50歳代	-4.27	0.00 **
	60歳代	-3.60	0.00 **
30歳代	20歳代	0.93	0.00 **
	40歳代	-1.51	0.00 **
	50歳代	-3.33	0.00 **
	60歳代	-2.67	0.00 **
40歳代	20歳代	2.44	0.00 **
	30歳代	1.51	0.00 **
	50歳代	-1.83	0.00 **
	60歳代	-1.16	1.00
50歳代	20歳代	4.27	0.00 **
	30歳代	3.33	0.00 **
	40歳代	1.83	0.00 **
	60歳代	0.66	1.00
60歳代	20歳代	3.60	0.00 **
	30歳代	2.67	0.00 **
	40歳代	1.16	1.00
	50歳代	-0.66	1.00

従属変数:「連携活動評価尺度」合計得点

*:平均の差は0.05以下で有意 **:平均の差は0.01以下で有意

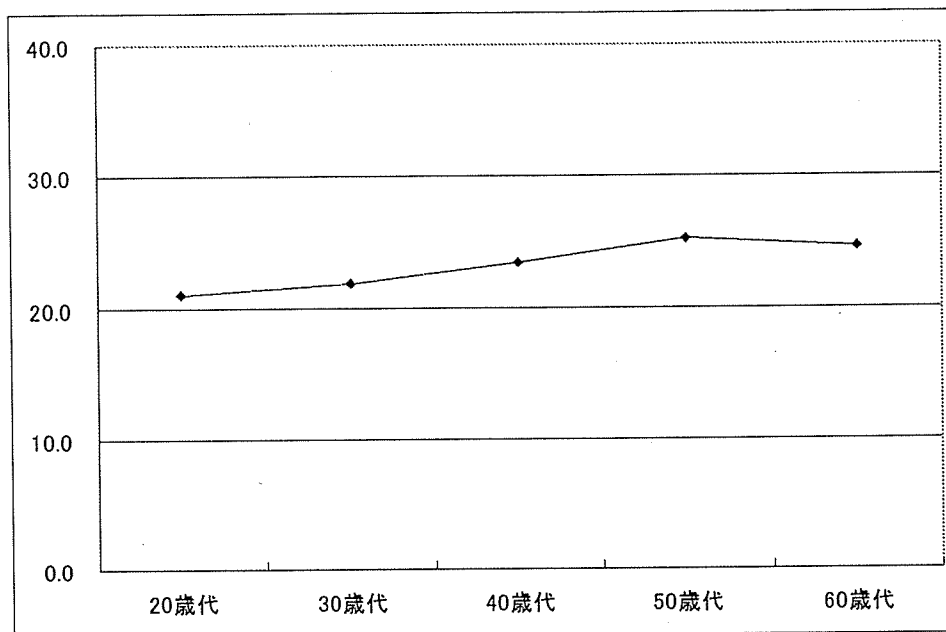


図 44 年齢階層と連携活動評価尺度の平均値

第5節 職位別の分析結果

職位を独立変数、「機関との連携の有無と有益性」尺度、「専門職との連携の有無と有益性」尺度、「連携活動評価尺度」の合計得点を従属変数として一元配置分散分析をおこなった。

(1) 職位と機関との連携の有無と有益性の関係

職位と「機関との連携の有無と有益性」に関する項目に欠損のない12,900名を解析対象とした。

一元配置分散分析をおこなった結果、「一般」の群と「主任」「主査」「係長」「課長補佐」「課長」群間で有意な差が観察された。「課長」の群は「係長」の群より機関との連携の規模が大きく、有益性の認知得点も高い傾向にあることが示唆された。

表 32 職位と機関との連携の有無の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差	範囲
一般	5137	34.7	13.7	0-92点
主任	1629	36.1	13.3	0-92点
主査	1143	37.1	13.5	0-78点
係長	853	39.9	13.4	0-81点
課長補佐	304	43.6	13.3	2-92点
課長	100	45.9	16.1	8-79点
その他	548	33.8	13.6	0-89点
合計	9714	36.0	13.8	0-92点

		平均値の差	有意確立
一般	主任	-1.427*	0.005
	主査	-2.446*	0.000
	係長	-5.185*	0.000
	課長補佐	-8.957*	0.000
	課長	-11.186*	0.000
	その他	0.927	1.000
主任	一般	1.427*	0.005
	主査	-1.019	1.000
	係長	-3.758*	0.000
	課長補佐	-7.530*	0.000
	課長	-9.759*	0.000
	その他	2.354*	0.010
主査	一般	2.446*	0.000
	主任	1.019	1.000
	係長	-2.738*	0.000
	課長補佐	-6.510*	0.000
	課長	-8.739*	0.000
	その他	3.373*	0.000
係長	一般	5.185*	0.000
	主任	3.758*	0.000
	主査	2.738*	0.000
	課長補佐	-3.771*	0.001
	課長	-6.000*	0.001
	その他	6.112*	0.000
課長補佐	一般	8.957*	0.000
	主任	7.530*	0.000
	主査	6.510*	0.000
	係長	3.771*	0.001
	課長	-2.229	1.000
	その他	9.884*	0.000
課長	一般	11.186*	0.000
	主任	9.759*	0.000
	主査	8.739*	0.000
	係長	6.000*	0.001
	課長補佐	2.229	1.000
	その他	12.113*	0.000
その他	一般	-0.927	1.000
	主任	-2.354*	0.010
	主査	-3.373*	0.000
	係長	-6.112*	0.000
	課長補佐	-9.884*	0.000
	課長	-12.113*	0.000

従属変数：「機関との連携の有無と有益性」尺度合計得点

*：平均の差は0.05以下で有意

表 33 職位と機関との連携の有無の多重比較

(2) 職位と専門職との連携の有無と有益性の認知との関係

職位と「専門職との連携の有無と有益性」に関する項目に欠損のない11,742名を解析対象とした。

一元配置分散分析をおこなった結果、「一般」群と「係長」「課長補佐」「課長」群間において、有意な差が観察された。このことから、「一般」群は「係長」「課長補佐」「課長」群よりも、専門職との連携の規模が小さく、有益性の認知得点も低い傾向にあることが示唆された。

表 34 職位と専門職との連携の有無の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差	範囲
一般	6146	37.4	12.9	0-68点
主任	2003	37.2	13.0	0-68点
主査	1369	36.8	13.2	0-68点
係長	1046	38.9	12.6	0-68点
課長補佐	401	40.6	12.2	2-68点
課長	140	41.2	13.5	0-67点
その他	637	35.6	12.7	0-68点
合計	11742	37.5	12.9	0-68点

表 35 職位と専門職との連携の有無の多重比較

		平均値の差	有意確率(P)
一般	主任	-1.43	0.01 *
	主査	-2.45	0.00 **
	係長	-5.19	0.00 **
	課長補佐	-8.96	0.00 **
	課長	-11.19	0.00 **
	その他	0.93	1.00
主任	一般	1.43	0.01 *
	主査	-1.02	1.00
	係長	-3.76	0.00 **
	課長補佐	-7.53	0.00 **
	課長	-9.76	0.00 **
	その他	2.35	0.01 *
主査	一般	2.45	0.00 **
	主任	1.02	1.00
	係長	-2.74	0.00 **
	課長補佐	-6.51	0.00 **
	課長	-8.74	0.00 **
	その他	3.37	0.00 **
係長	一般	5.19	0.00 **
	主任	3.76	0.00 **
	主査	2.74	0.00 **
	課長補佐	-3.77	0.00 **
	課長	-6.00	0.00 **
	その他	6.11	0.00 **
課長補佐	一般	8.96	0.00 **
	主任	7.53	0.00 **
	主査	6.51	0.00 **
	係長	3.77	0.00 **
	課長	-2.23	1.00
	その他	9.88	0.00 **
課長	一般	11.19	0.00 **
	主任	9.76	0.00 **
	主査	8.74	0.00 **
	係長	6.00	0.00 **
	課長補佐	2.23	1.00
	その他	12.11	0.00 **
その他	一般	-0.93	1.00
	主任	-2.35	0.01 *
	主査	-3.37	0.00 **
	係長	-6.11	0.00 **
	課長補佐	-9.88	0.00 **
	課長	-12.11	0.00 **

従属変数:「機関との連携の有無と有益性尺度」合計得点

*:平均の差は0.05以下で有意

(3) 職位と連携活動評価尺度の関係

職位と連携活動評価尺度に関する項目に欠損のない12,106名を解析対象とした。

一元配置分散分析をおこなった結果、「一般」群と「主任」「主査」「係長」「課長補佐」「課長」群間で有意な差が観察された。このことから、「一般」群は「主任」「主査」「係長」「課長補佐」「課長」群よりも、連携活動評価尺度得点が低い傾向にあることが示唆された。また、「主査」群は、「一般」「主任」群よりも、連携活動評価尺度得点が高いが、「係長」「課長補佐」「課長」群よりは、得点が低いことが明らかとなった。

表 36 職位と連携活動評価尺度の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差	範囲
一般	6279	21.4	4.8	0-37点
主任	2083	22.5	4.7	0-36点
主査	1418	23.6	4.9	0-39点
係長	1118	25.3	4.7	6-42点
課長補佐	413	26.1	5.0	5-38点
課長	137	27.4	5.3	1-40点
その他	658	22.0	5.7	0-37点
合計	12106	22.5	5.1	0-42点

表 37 職位と連携活動評価尺度の多重比較

		平均値の差	有意確立
一般	主任	-1.098*	0.000
	主査	-2.215*	0.000
	係長	-3.863*	0.000
	課長補佐	-4.664*	0.000
	課長	-5.961*	0.000
	その他	-0.622*	0.040
主任	一般	1.098*	0.000
	主査	-1.117*	0.000
	係長	-2.765*	0.000
	課長補佐	-3.566*	0.000
	課長	-4.863*	0.000
	その他	0.475	0.630
主査	一般	2.215*	0.000
	主任	1.117*	0.000
	係長	-1.647*	0.000
	課長補佐	-2.448*	0.000
	課長	-3.745*	0.000
	その他	1.593*	0.000
係長	一般	3.863*	0.000
	主任	2.765*	0.000
	主査	1.647*	0.000
	課長補佐	-0.801	0.095
	課長	-2.098*	0.000
	その他	3.240*	0.000
課長補佐	一般	4.664*	0.000
	主任	3.566*	0.000
	主査	2.448*	0.000
	係長	0.801	0.095
	課長	-1.297	0.152
	その他	4.041*	0.000
課長	一般	5.961*	0.152
	主任	4.863*	0.000
	主査	3.745*	0.000
	係長	2.098*	0.000
	課長補佐	1.297	0.152
	その他	5.338*	0.000
その他	一般	0.622*	0.000
	主任	-0.475	0.630
	主査	-1.593*	0.000
	係長	-3.240*	0.000
	課長補佐	-4.041*	0.000
	課長	-5.338*	0.000

従属変数:「連携活動評価尺度」合計得点

*:平均の差は0.05以下で有意

第6節 所属部署別の分析結果

所属部署を独立変数、「機関との連携の有無と有益性」尺度、「専門職との連携の有無と有益性」尺度、「連携活動評価尺度」の合計得点を従属変数として一元配置分散分析をおこなった。

(1) 所属部署と機関との連携の有無と有益性の関係

所属部署と「機関との連携の有無と有益性」に関する項目に欠損のない9,640名を解析対象とした。

一元配置分散分析をおこなった結果、「保健福祉」の群と「保健」「介護」群間で有意な差が観察された。このことから、「保健福祉」の群は「保健」「介護」群より機関との連携の規模が大きく、有益性の認知得点も高い傾向にあることが示唆された。また、「介護」群と「保健」「保健福祉」「福祉」群間でも有意な差が観察された。これは、「介護」群は「保健」「保健福祉」「福祉」群よりも、機関との連携の規模が小さく、有益性の認知得点も低い傾向にあることを示唆している。

以上のように専門機関との連携においては、保健福祉部署の保健師の得点が高く、介護の得点が低いことが示唆された。保健福祉分野の保健師は、多くの専門機関との連携を行なっていることが示唆された。

表 38 所属部署と機関との連携の有無の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差	範囲
保健	5398	35.9	14.0	0-92点
保健福祉	2786	37.3	13.8	0-92点
福祉	592	35.9	12.7	2-81点
介護	634	32.9	11.6	0-72点
その他	230	30.3	15.5	0-81点
合計	9640	36.0	13.8	0-92点

		平均値の差	有意確立
保健	保健福祉	-1.412*	0.000
	福祉	error	1.000
	介護	2.997*	0.000
	その他	5.633*	0.000
保健福祉	保健	1.412*	0.000
	福祉	1.466	0.189
	介護	4.409*	0.000
	その他	7.045*	0.000
福祉	保健	error	1.000
	保健福祉	-1.466	0.189
	介護	2.942*	0.002
	その他	5.578*	0.000
介護	保健	-2.997*	0.000
	保健福祉	-4.409*	0.000
	福祉	-2.942*	0.002
	その他	2.636	0.131
その他	保健	-5.633*	0.000
	保健福祉	-7.045*	0.000
	福祉	-5.578*	0.000
	介護	-2.636	0.131

従属変数：「機関との連携の有無と有益性」尺度合計得点

*：平均の差は0.05以下で有意

表 39 所属部署と機関との連携の有無の多重比較

(2) 所属部署と専門職との連携の有無と有益性の認知との関係

所属部署と「専門職との連携の有無と有益性」に関する項目に欠損のない11,652名を解析対象とした。ここでいう専門職とは、個人との連携がイメージされており、例えばボランティア団体の事務局長との連携であったり、住民団体の代表との連携が問われている。

一元配置分散分析をおこなった結果、「福祉」群と「保健」「保健福祉」「介護」群間において、有意な差が観察された。このことから、「福祉」群は「保健」「保健福祉」群よりも、専門職との連携の規模が小さく、有益性の認知得点も低い傾向にあり、「介護」群よりは、専門職との連携の規模が大きく、有益性の認知得点も高いことが示唆された。

専門職との連携においても専門機関との連携と同様に、保健福祉部署の保健師の得点が高く、福祉や介護部署の保健師の得点が低いことが示唆された。

表 40 所属部署と専門職との連携の有無の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差	範囲
保健	6373	38.9	12.6	0-68点
保健福祉	3473	39.1	12.4	0-68点
福祉	770	31.5	11.6	0-66点
介護	753	28.2	12.2	0-68点
その他	283	28.3	14.0	0-68点
合計	11652	37.5	12.9	0-68点

表 41 所属部署と専門職との連携の有無の多重比較

		平均値の差	有意確立
保健	保健福祉	-0.206	1.000
	福祉	7.325*	0.000
	介護	10.624*	0.000
	その他	10.610*	0.000
保健福祉	保健	0.206	1.000
	福祉	7.531*	0.000
	介護	10.830*	0.000
	その他	10.816*	0.000
福祉	保健	-7.325*	0.000
	保健福祉	-7.531*	0.000
	介護	3.298*	0.000
	その他	3.284*	0.002
介護	保健	-10.624*	0.000
	保健福祉	-10.830*	0.000
	福祉	-3.298*	0.000
	その他	error	1.000
その他	保健	-10.610*	0.000
	保健福祉	-10.816*	0.000
	福祉	-3.284*	0.002
	介護	error	1.000

従属変数:「専門職との連携の有無と有益性尺度」合計得点

*:平均の差は0.05以下で有意

(3) 所属部署と連携活動評価尺度の関係

所属部署と連携活動評価尺度に関する項目に欠損のない12,017名を解析対象とした。

一元配置分散分析をおこなった結果、「福祉」群と「保健」「保健福祉」「介護」群間で有意な差が観察された。

このことから、「福祉」群は「保健」「保健福祉」「介護」群よりも、連携活動評価尺度得点が高い傾向にあることが示唆された。また、「保健」群と「介護」群は、「保健福祉」「福祉」群よりも、連携活動評価尺度得点が低い傾向にあることが明らかとなった。

表 42 所属部署と連携活動評価尺度の記述統計量

	度数	平均値	標準偏差	範囲
保健	6639	22.0	4.9	0-39点
保健福祉	3568	22.9	5.0	0-42点
福祉	768	24.1	5.3	0-39点
介護	764	22.2	5.7	0-40点
その他	278	22.6	6.2	0-38点
合計	12017	22.5	5.1	0-42点

表 43 所属部署と連携活動評価尺度の多重比較

		平均値の差	有意確立
保健	保健福祉	-0.880*	0.000
	福祉	-2.081*	0.000
	介護	-0.128	1.000
	その他	-0.586	0.591
保健福祉	保健	0.880*	0.000
	福祉	-1.201*	0.000
	介護	0.752*	0.002
	その他	0.294	1.000
福祉	保健	2.081*	0.000
	保健福祉	1.201*	0.000
	介護	1.953*	0.000
	その他	1.495*	0.000
介護	保健	0.128	1.000
	保健福祉	-0.752*	0.002
	福祉	-1.953*	0.000
	その他	-0.458	1.000
その他	保健	0.586	0.591
	保健福祉	-0.294	1.000
	福祉	-1.495*	0.000
	介護	0.458	1.000

従属変数:「連携活動評価尺度」合計得点

*:平均の差は0.05以下で有意